



# 「カーボンニュートラルに関する自動車政策勉強会（第2回）」

自動車議連が5月31日に開催

CN実現に向けた課題などを共有

5テーマについて経済産業省などが説明

多数の国会議員が出席した自動車政策勉強会。写真円内は挨拶をする額賀議連会長

**自** 民党自動車議連（会長＝額賀福志郎衆議院議員）は5月31日、東京・千代田区の衆議院第一議員会館で「カーボンニュートラルに関する自動車政策勉強会（第2回）」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本会合への出席は今回も議員本人に限定。国会議員59名が出席し、経済産業省と自動車業界等からヒアリングした後、活発な意見交換が行われました。

勉強会は、佐藤信秋議連事務局長（参議院議員）の議事進行の下に行われ、まず額賀福志郎議連会長（衆議院議員）が冒頭挨拶で、「第1回日の勉強会では、脱炭素電力やレアメタルの確保、蓄電池の技術革新などさまざまな課題を官民一体となって乗り越えていかなければならないことを共有しました。今回も多様なテーマをヒアリングしたうえで、電動化を進めながら多様な技術の選択肢を追求し、日本の強みを活かしていくことを改めて確認したいと考えております。また、日本の自動車産業が、カーボンニュートラルという難局を乗り越えて、今後も世界の勝者として日本をリードしていくことができるよう、われわれも頑張ってサポートしていきたいと思っています」と話しました。

今回は「税制改正」もテーマの一つに取り上げられていたこともあり、額賀会長は「いわゆるCASEの進展によって、自動車の税体系をどう見直したらいいのか。例えば、短期的に電動化が進む中で何をすべきか、中長期的には所有から利用へと変わっていく中で受益と負担をどういうふうと考えていくのか、こういうことを年末に向けてしっかりと議論をして積み上げていき、対等な国際競争ができるようにしていきたいと考えています」と話し、積極的かつ活発な議論や意見交換を呼びかけました。

この後、経済産業省と自動車業界から5つのテーマについて説明されました。テーマと説明者は次の通りです。

- カーボンニュートラル時代における水素政策の今後の方向性：茂木正氏（経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長）



CN勉強会のまとめ・提言を発表する塩谷立議連幹事長。左は額賀議連会長

- 水素産業の現状と課題：福島洋氏（水素バリューチェーン推進協議会事務局長）
  - 合成燃料・バイオ燃料の活用－カーボンニュートラルフューエル（CNF）－：林倫氏（日本自動車工業会燃料潤滑油部会部会長）
  - 税制改正に関する考え方：長田准氏（日本自動車工業会総合政策委員長）
  - カーボンニュートラルに関する自動車関連政策の状況：藤木俊光氏（経済産業省製造産業局長）
- この後、出席した国会議員から意見や質問などが続き、活発な意見交換が行われました。

意見交換の後、塩谷立議連幹事長（衆議院議員）がまとめの挨拶に立ち、「（CN実現に向けては）自動車産業にとっても大変厳しい状況にあるわけですが、本日、自動車産業がCNに向かって前向きに取り組んでいることを確認することができました。課題も山積しており、国際的な動向も見ながら中長期的に戦略をどう描いていくのが非常に大事。引き続き官民一体となって、自動車議連としても最大限の支援をしていかなければならないと考えています」と訴えました。

なお、自動車議連では今回の勉強会の「まとめ」として、「カーボンニュートラル実現を通じた我が国自動車産業の競争力強化に向けて」と題したペーパーをとりまとめ発表し、課題や論点、方向性などを共有しています。

## 【経済産業省出席者】

▽藤木俊光・製造産業局長、▽福永哲郎・大臣官房審議官（製造産業局担当）、▽吉村直泰・製造産業局自動車課長、▽茂木正・資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長、▽細川成己・資源エネルギー庁資源・燃料部石油精製備蓄課長 ※藤木氏、福永氏、吉村氏、茂木氏は異動のため、肩書は当時。

## 【業界関係出席者】

▽日本自動車工業会＝長田准・総合政策委員長（トヨタ自動車執行役員）、後藤収・税制部会長（日産自動車理事）、林倫・燃料潤滑油部会長（トヨタ自動車主査）、永塚誠一・副会長・専務理事、▽福島洋・水素バリエーション推進協議会事務局長（岩谷産業専務執行役員）、▽山岡正博・日本自動車会議所専務理事



日本自動車会議所は5月13日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、第2回運営審議委員会（委員長＝永塚誠一・日本自動車工業会副会長）を開催し、第88回定時総会および第214回理事会の上程議案について審議しました。新型コロナウイルス感染防止の観点から、出席者の半数以上がリモートでの出席となりました。

委員会では、山岡正博専務理事の挨拶のあと、永塚委員長の議事進行に続いて、畠山太作常務理事が第88回定時総会（第213回理事会上程議案）の①2021年度事業実績・2022年度事業計画案、②2021年度決算・2022年度予算案、③理事・監事選任の3議案について説明しました。また、第214回理事会上程議案である①会長選定、②副会長・専務理事・常務理事・理事（常勤）選定の2議案について説明し、審議・意見交換を経て、すべての議案は承認され、委員会は閉会となりました。

その後、第213回理事会は書面開催され、すべての議案は承認されました（決議日：5月27日）。



東京都自動車会議所は6月15日、東京・新宿区の京王プラザホテルで第76回理事会および第48回通常総会を開催し＝写真＝、令和3年度事業実績・決算報告と同4年

度事業計画・予算案を審議。いずれも原案通り承認されました。続いて第77回理事会を兼ね任期満了に伴う役員人事が審議され、会長以下、役員全員が再任されました。

通常総会は、新型コロナウイルス感染防止のため過去2年間にわたり書類審議とし、3年ぶりに対面での開催となりました。冒頭で挨拶した中川雅治会長は「新型コロナウイルスは、私たちの日常生活を変え、飲食業や輸送・観光業界に打撃を与えただけでなく、自動車関連業界にも大きな影響をもたらしました」とし、さらにロシアによるウクライナ侵攻により、景気の先行き不透明感が強まっていると現状認識を述べました。

自動車関連業界を取り巻く環境について「自動運転や環境対応の技術進展が図られる一方で、人出不足への対策と働き方改革の両立を迫られています」と急激に変化する厳しい状況を強調。これらの課題解決に向け、コロナ禍で開催できなかった都議会自民党と東京都関連部局との意見交換・要望を聞く「東京都自動車政策懇談会」を「今年度は何としても開催し、会員の皆さまが抱える課題解決と首都・東京における、クルマ社会の健全な発展のために全力を尽くしていきたい」と語りました。

続いて、令和3年度の事業実績や決算内容について事務局が説明。監事による監査報告を受けて、異議なく承認されました。その後、事務局が説明した同4年度の事業計画や予算内容についても異議なく承認されました。役員人事は全役員を再任とする候補案を事務局が説明し、議案通り承認されました。

総会終了後に行われる懇親会は、新型コロナウイルス感染状況が引き続き予断を許さない見通しであることから、今回も中止としました。〔東京都自動車会議所〕

## 討 報

東都自動車元社長  
（当会議所会員元代表者）

### 宮本 市郎氏

東都自動車を創業し、社長、会長を務められた宮本市郎（みやもと・いちろう）氏のお別れの会が6月30日、東京・千代田区の帝国ホテルで執り行われました。宮本氏は2020年4月22日に逝去。97歳でした。